

京都建設技術フェア

関係者500人余りが来場

IT関連、新技術をPR

京都サンダー



表に挨拶する代表者

京都サンダー(天親 恭子代表取締役)は6月26日、建設技術フェア「ITでひらがる未来」を京都で開催した。会場となった左京区岡崎のみやこめッセ京都市勤業館には、500人余りが来場。建設IT関連と新工法、新技術の展示を行うとともに、近畿地方整備局等から講師が

招かれ、建設産業の現状と将来を展望する講演会が行われた。今回のフェアは、拡大する情報化施工の対応支援と、地元業者の取り組みを紹介するため、地域密着サービスを掲

げる京都サンダーが創立36周年を契機に企画した。開会に挨拶した天親代表は「日頃のサポート業務を通じて、建設の素晴らしさをこの京都の地から発信していきたい、という夢を持っていま

「土木技術者が学ぶべき積算」(株)建設施工アカデミー・出貝裕氏、「なぜ、簡易型情報化施工なのか」(エコモット)・花田浩二氏、「建設業におけるBCP(事業継続計画)の事例」(川田テクノシステム)・曾田テノシシステム(株)・曾田テノシ氏の3セミナーが開かれた。



大西近畿整備局の技術調整管理官



山本技術士事務所の山本代表



講演会・セミナーが開かれ建設関連ITの理解を深めるとともに、建設産業の今後を考えた

面が繰り広げられた。特別セミナーは、総合評価方式をテーマに、「土木技術者が学ぶべき積算」(株)建設施工アカデミー・出貝裕氏、「なぜ、簡易型情報化施工なのか」(エコモット)・花田浩二氏、「建設業におけるBCP(事業継続計画)の事例」(川田テクノシステム)・曾田テノシシステム(株)・曾田テノシ氏の3セミナーが開かれた。

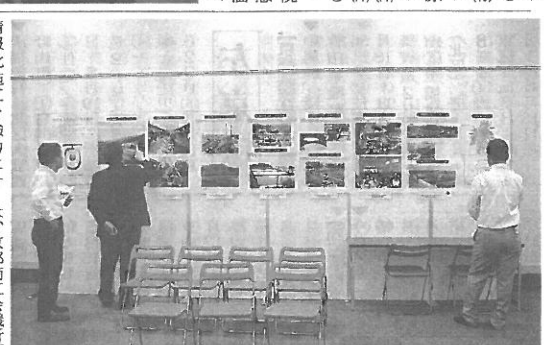
建設事業講演会は、国交省近畿地方整備局の大西博技術調整管理官と、山本技術士事務所

して参加した東日本大震災については「地元建設企業は、がれきで埋ま

ばならない」とし、防

エーワ(南スギテック)▽

は、京都商工会議所が主催した「知恵ビジネスプランコンテスト」で認定プランに選ばれた新しいオーバーレイ工法の「アステープ」を紹介



京都市上下水道局の100周年を記念したパネル展も行われた



赤外線劣化診断技術等を紹介したスキテック



移動型建設発生土有効利用システム「土環くん」を紹介した協栄建設



西本建設ではストリートプリント」を紹介



「アステープ」を紹介した石川建設

情報化施工を強力にサポートする建設現場遠隔監視システム「現場ロイドサービス」を展示した。(倉敷紡績(大坂市)は、2枚のデジタル画像から3次元座標データを求め、計測・測量分野を調査・研究用途で幅広く利用可能な三次元写真応用計測システム「Ku-raves・MD」を展示した。

(株)スギテック(右京区)は、赤外線法による外壁劣化診断技術やひび割れ画像診断法などを紹介し、既設構造物の維持管理の合理化、低コスト化を提案した。

(株)昭建(天津市)では、NETIS登録技術の幅広吹付工法を展示。大幅な工期短縮、施工コスト削減、構造物の延命長寿命化を提案した。(株)石川建設(伏見区)は、既設(または新設)のアスファルト舗装を撤去することなくレンガ・ブロック敷や石畳調の見た目に変え、メンテナンス性・コスト性に優れた「ストリートプリント」を紹介した。

協栄建設(伏見区)は、残土処分されていた質の悪い土を、良い土と混ぜ、再利用する移動型建設発生土有効利用システム「土環くん」(NETIS登録技術)を紹介。高い施工性と環境性能をアピールした。